

大学博物館共同企画シリーズI

イコン —東西聖像画の世界—

◎会期／2011年11月2日(水)～12月10日(土)
◎主催／西南学院大学博物館 玉川大学教育博物館

開催概要

ギリシャ語で「像・姿」を意味するイコン(ICON)。イコンは礼拝用画像であるとともに美術作品としても高い評価を得ています。また、イコンの製作意図も「見えるものを通じて、見えないもの(神的世界)へと人びとを導くもの」であるため、各国の信仰形態や習慣、歴史的背景も色濃く反映されています。本展を通じこれらの聖像画に込められた想いや作風などの違いを感じていただける機会になれば幸いです。



◇展示構成

I. 玉川大学教育博物館所蔵イコン ～西欧・東欧圏の宗教画～

玉川大学教育博物館が所蔵するイコンのなかから、ロシアを中心にギリシャ、イタリアの聖像画を展示します。また同じ主題であっても時代や国により描き方、とらえられかたの違いがあり、イコン製作の歴史的背景もあわせて紹介します。



〔主な資料〕
三本手(トリケルサー)の聖母
怒りのキリスト
聖母子(エレウーサ型) など

II. 西南学院大学博物館所蔵イコン ～非西欧圏の宗教画～

西南学院大学博物館が所蔵するイコンは、フィリピンやエチオピアなどの国々で製作されたものです。西洋からキリスト教がもたらされ、これがアジアやアフリカにどのように受け入れられていったのか。同じ主題からその共通点や相違点を探り、受容のあり方を紹介します。



〔主な資料〕
救済の聖母子
聖母子
受胎告知とルーマニア十聖図 など

III. 玉川大学教育博物館と 西南学院大学博物館の取り組み

玉川大学教育博物館と西南学院大学博物館は大学附属機関として、「社会へ開かれた大学」のツールとして様々な取り組みをしています。特別展や企画展、公開講演会をはじめ、刊行物出版や博物館実習の場として利用されています。ここでは大学博物館の取り組みを紹介します。

大学博物館 共同企画シリーズ

大学には社会との接点として博物館や美術館、動植物園などの附属機関があります。これらは「知の拠点」として、大学における調査研究の成果を公表し、発信しております。これまで本学でも社会貢献事業として展覧会などを開催してきました。本シリーズは大学の垣根を越えて、ふたつの大学博物館が連携することで新しい知識(+α)を創出し、質の高い展覧会(学び場)を提供するとともに、社会に還元することを目的としています。

行事予定

2011(平成23)年

【企画展／特別展】

11月2日(水)～12月10日(土)
イコン—東西聖像画の世界
[場所]西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月20日(火)～2012年5月15日(火)〔予定〕
古写真でみる西南学院 Part I
[場所]西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

【講演会など】

12月4日(日)13:00～
そよかぜ合唱団コンサート
[場所]西南学院大学博物館2階講堂

12月10日(土)12:00～17:00〔予定〕
西南プリエール・アウラ・コロラドレー
クリスマス・ジョイント・コンサート
[場所]西南学院大学博物館2階講堂

12月14日(水)17:40～
西南学院教職員クリスマス
[場所]大学チャペル

12月18日(日)13:00～18:00〔予定〕
合唱団コーロピエーノ合唱講習会
[場所]西南学院大学博物館2階講堂

12月22日(木)18:30～
西南学院コミュニティークリスマス
[場所]中・高チャペル

【せいなんこどもワークショップ】

12月10日(土)10:00～12:00
松ぼっくりでクリスマスツリー!
[場所]西南コミュニティセンター

2012(平成24)年

【講演会など】

1月15日(日)14:00～18:00〔予定〕
福岡ノバハコレギウム演奏会
[場所]西南学院大学博物館2階講堂

【せいなんこどもワークショップ】

3月3日(土)10:00～12:00
2000年前の生活体験—勾玉(まがたま)をつくらう—
[場所]西南コミュニティセンター

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料

来館者掲示板

とっても楽しかったです。何時間でもいられます。ビデオがわかりやすい! (2011/10/17 女性 10代)

ビデオや説明がわかりやすかった!ありがとうございました。(2011/10/22 女性 10代)

今日一番乗りうれしい!パイプオルガンひいてみたいです。2階、3階も昔のふんいきがすごかった。(2011/10/29 Sさん 10歳)

イコンがこまかいところもきちんとはみださずにぬれていて、すごくてのしかった!! (2011/10/29 Kさん 6歳)

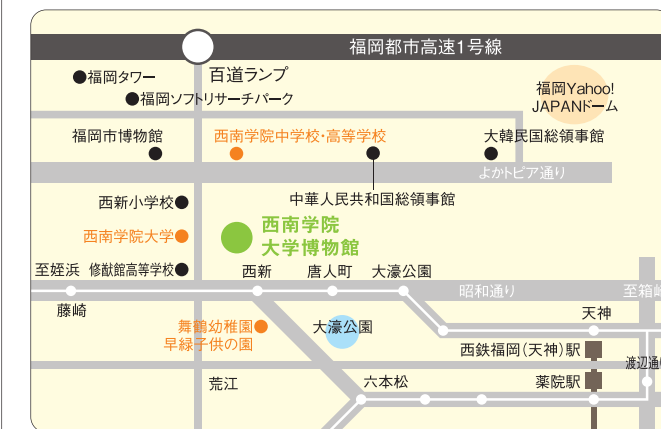
イコンみました。すてき。ところどころむしめがねがあったらいいなと思いました。(2011/11/07 女性 10代)

まきょうがすこしこわかったです。(2011/11/14 男性 10代)

イコンてんはすばらしかったです。(2011/11/18 N・Kくん 7歳)

寒さが身にしみる季節となりましたが、みなさんいかがお過ごしですか?当館には、そんな寒さも吹き飛ばすような元気いっぱいの子どもたちが来館してくれています。来館者ノートに一生懸命書かれたコメントからも、展覧会を楽しんでくれた様子うかがえて嬉しい限りです。(博物館スタッフ F・Kより)

アクセスマップ ACCESS MAP



- 地下鉄: 福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
天神 → 西新駅下車 → 約8分
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- バス: 博多駅バスセンター → 修験館前 → 約35分
天神 → 修験館前 → 約20分
※修験館前バス停から徒歩5分
- タクシー: 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 09 2011.12

◎西南学院大学



景教僧文青磁壺
〔西南学院大学博物館所蔵〕

特集 景教僧文青磁壺

博物館紹介◎ 3階ギャラリー

特別展紹介 イコン—東西聖像画の世界—

所蔵品紹介 景教僧文青磁壺

大学博物館紹介◎ 玉川大学教育博物館

大学周辺情報◎ 赤煉瓦の門 復元された赤煉瓦の景観

3階ギャラリー

2階講堂を取り囲むように3階にギャラリーをもうけています。ここでは博物館を1921年当時の姿に復元している行程を写真付きで説明しています。復元にあたっては当時の古写真はもとより、設計図を参考にしております。こうした参考図版を一般の方にも広く知ってもらえるようにわかりやすく紹介しています。また、古写真をひもときながら当時のヴォーリズ建築を追想するコーナーを設けています。なお、大学博物館の活動記録として、これまでおこなってきた展示会のポスターもあわせて展示しています。奥には階段上の長椅子を一部残しています。陽光差し込む長椅子に座り、開放感あるギャラリーで、過去を振り返りながら、現在の姿を見つめ直してはいかがでしょうか。



3階ギャラリーの長椅子



図面でたどる西南学院のヴォーリズ建築



西南学院旧本館・講堂再生の道のり

【大学博物館紹介⑧】

玉川大学教育博物館

玉川大学は創立者小原國芳の「全人教育」を教育信条に掲げて開校した玉川学園が母体です。教育博物館は創立以来収集を続けてきた資料をもとに、1969年大学図書館内に開設した「玉川学園教育博物資料室」を前身としています。その後、「玉川学園教育博物資料館」（1983年）、「玉川学園教育博物館」（1986年）と改称、1996年から玉川大学教育博物館となりました。教育史関係の資料（藩校・郷校・私塾・寺子屋に関するもの）をはじめ、芸術資料、考古・民俗資料・玉川学園史関係、ジョン・グールド鳥類図譜などの特別資料などを所

蔵しています。年に数回の展示会や講演会をおこなうとともに博物館実習の場としても利用されています。年2回の博物館ニュース発行や図録・目録なども刊行し幅広く活動しています。

開館時間 / 月～金曜日 9:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)
休館日 / 土曜日、日曜日、祝祭日
玉川大学が定めた休日(夏期休暇・年末年始休暇ほか)
※そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
連絡先 / 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8656
URL / http://www.tamagawa.jp/research/museum/



所蔵品紹介

景教僧文青磁壺 13世紀

青磁に付けられた聖職者像



中国浙江省の越州窯の青磁で、四面に聖職者像が貼り付けられています。ネストリウス派キリスト教「景教」関係の図像は河北省房山の「十字景教石刻」などで知られています



修道服を着た西域人



顔の周囲を囲むフード帽



前に垂れ下がった腰紐

が、聖職者像はこれまで知られていません。この西域人の特徴をもつ人物は修道衣を着て胸の前に両手を出しています。また、腰を結ぶ紐が前に垂れ下がっている点はフランシスコ会の僧服にも通じています。唐代の845年に弾圧を受け、衰退した景教が元代に再興していることから、この作品は13世紀の作品と推察できます。数少ない中国におけるキリスト教のあり方を示す貴重な資料といえます。

学芸員の眼 — 大学博物館 —

今年度から大学博物館GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業一日中韓の大学博物館の機能と大学院生就業支援」がはじまりました。先日、館長と大学院生と一緒に、大学博物館を見学させていただきました。急なお願にもかかわらず、ご快諾の上、懇切丁寧な対応をいただき、本誌を以って改めて御礼申し上げる次第です。大学院生にはとても参考になったようで、各大学博物館の抱える問

題や設備環境など、新しい視点を身につけることができたかと思います。ある大学博物館の学芸員からの「大学院生時代にこうした調査ができて恵まれています」という言葉は特に心に響いたようでした。学芸員はなにより現場を知ることが大切です。専門知識を身につけるなかで、多くの事例を集めて自らの武器にしていっていただけたらと思います。

博物館学芸員 安高啓明



日本女子大学成瀬記念館でのヒアリング



学習院大学史料館でのヒアリング



國學院大学でのヒアリング

博物館通信

2011年9月から11月までの間に行なった博物館活動や出来事の中から、いくつか紹介します。

9月2日～10月13日、実習生企画展「西南大事“展”」を開催しました。

11月2日～12月10日、秋季特別展「イコン—東西聖像画の世界—」を開催しています。

11月2日、西南学院小学校2年生からサンクスギビングデーの贈り物がありました。

11月5日、第10回特別展関連公開講演会を開催いたしました。

11月5日、本学博物館の高倉洋彰館長が単著『箸の考古学』（同成社、2011年）を刊行いたしました。

11月9日～17日、大学博物館学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業」の調査をおこないました。下記の大学博物館の関係各位に御礼申し上げます。

大妻女子大学生活文化資料館、学習院大学史料館、郡山開成学園日本民俗美術館、國學院大學伝統文化リサーチセンター、国際基督教大学湯浅八郎記念館、駒澤大学祥文化歴史博物館、東京大学総合研究博物館、東京農業大学「食と農」の博物館、東洋大学井上円了記念博物館、玉川大学教育博物館、日本女子大学成瀬記念館、明治大学博物館、山形大学附属博物館、早稲田大学会津八一記念博物館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、和洋女子大学文化資料館

スタッフの声

さまざまな出来事があった2011年も残りわずかとなりました。当館では本年も特別展や講演会、こどもワークショップなどの活動を行って参りましたが、その中で来館者の皆様のご感想や温かいお言葉、ワークショップに参加してくれた子どもたちの笑顔などたくさんのお言葉をいただきました。当館の活動が少しでも皆様のお役に立てていると感じることができ、スタッフ一同大変感謝しております。

新しい年を迎えるにあたって、また新たな気持ちで今まで以上に皆様に喜んでいただける博物館作りに努めて参ります。来年も博物館で皆様にお会いできることを心よりお待ちしております。

臨時職員
本学大学院国際文化研究科博士前期課程
稲益あゆみ

博物館の正面玄関の向かいに赤煉瓦の門があります。現在は赤煉瓦の門、建物群や塀が印象的な東キャンパスですが、この門は、1982年に復元されたものなのです。この門は2003年に高等学校百道浜に移転するまで高等学校正門でしたが、1966年頃に一度、門幅の広い洋式の門に建て替えられました。その後、1974年の講堂（現博物館）修復に伴い、講堂と対となるよう赤煉瓦の正門が復元されたのです。松の緑に代表されるテレベルト・グリーンと並び、西南を象徴する赤煉瓦の景観からも様々な学院の歴史を垣間見ることができます。

臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士後期課程
貞清世里



「大学周辺情報⑨」
赤煉瓦の門
復元された景観